

事務事業	11036	中高生世代の居場所づくり事業	担当課	子育て支援課	担当係	子育て支援係
計画 後 期 体 計 系 画	施策	07 子どもの権利を守り、安全で健やかに成長できるまちをつくる	予算 科 目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	240 子どもの居場所をつくる		款	3	民生費
				項	3	児童福祉費
				目	6	子育て支援事業費
法令根拠条例等		志免町子どもの権利条例	個別計画			
実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H19 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～	年度

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
年末年始(12/28～1/4)を除く毎日、平日13時～19時、土日祝日10時～17時、坂瀬共同利用施設を子ども(中学生から18歳)の居場所「リリーフ」として開放している。 土日は卓球、畑作り、アクセサリ作り等のレクリエーションや講座などを開催。 NPO法人「スペースdeGUN2」に運営を委託し、委託金を支払っている。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
NPO法人との委託契約・委託料支払事務、活動報告内容のチェック等		
主 な 事 業 費 の 内 訳	子どもの居場所づくり事業委託料	3,982 千円
	電気・ガス料	534 千円
	電話料	97 千円
	上下水道料	32 千円
		千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務 事業 の 目 的	① 手段(主な活動)	30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 中学生から18歳までの居場所として施設を開放。 運営はNPO法人に委託する。
	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	志免町内の中学生から18歳の子ども
	③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)	安心して体を休めたり話をしたり活動できる場を提供する。

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値		
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 登録者数	人	55	54	50 (見込)
イ 来所人数(延べ)	人	298	474	500 (見込)
ウ 開所日数	日	357	353	356 (見込)
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)				
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 中学生から18歳までの子どもの数	人	3,253	3,286	3,383 (見込)
イ				(見込)
ウ				(見込)
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)				
名称	単位	29年度	30年度	31年度
ア 中学生から18歳までの子どものうち登録者の割合	%	目標	2.0	2.0
		実績	1.6	1.6
イ 複数回来所する登録者の割合(複数回来所者数/登録者数)	%	目標	80.0	80.0
		実績	49.0	53.0
ウ		目標		
		実績		
エ		目標		
		実績		
オ		目標		
		実績		

(2) 総事業費の推移

事 業 費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経 費	国・県支出金、地方債等						
		受益者負担等						
		一般財源	4,492	4,660	4,643	4,836	4,836	4,836
		合計(A)	4,492	4,660	4,643	4,836	4,836	4,836
		(内臨時・嘱託職員人件費)						
		正職員人件費[按分](B)	597	876	874	849		
	トータルコスト(A)+(B)	5,089	5,536	5,517	5,685	4,836	4,836	

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成19年度より施行された「志免町子どもの権利条例」に、「町は居場所の確保と充実に努める」と規定されている。	特に変化はない	事業対象者から、「とても安心できる」「とても楽しい」など。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	家や学校と違う居場所を求めている子どもたち居場所となる「リリーフ」の周知・広報を行う。 また、中学校で行っている出張リリーフの定着による相談の充実を図る。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	志免町内の中学生から18歳の子どもに、休息・交流・活動できる場を提供することは、子どもが心身が健やかに育つことや地域全体で子どもを育てることにつながる。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	従来の講座やクラブ等と異なる居場所づくりを町が率先して行うことは、町全体で子どもを大切に守り育てるという姿勢を示し、かつ町民に子どもの居場所づくりの重要性を意識づけることになる。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	居場所「リリーフ」の周知・広報を広く行うことで、家や学校と違う居場所を求めている子どもたちが居場所を知り、来るきっかけとなる
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	家や学校、習い事等とは違う居場所を求めている子ども達の行き場の選択肢が減少する。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input checked="" type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input type="checkbox"/> ない(理由→)	スタッフ配置や活動に必要な委託金と、燃料費、光熱水費、電話料のみである。 居場所として開放している施設であり、受益者負担はなじまず、利用者の減少につながる。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

中学校に向く、出張リリーフの定着が、学校によりかなりの偏りがあった。中学生にリリーフを身近な存在であるように、いつでも、本と一緒にあったり、筆箱に入れて使ってもらえるようにとグッズを改良し(目盛りのついたしおり)配布した。

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	家や学校と違う居場所を求めている子どもたち居場所となる「リリーフ」の周知・広報を行う。 また、中学校で行っている出張リリーフの定着による相談の充実を図る。